

位置と環境

遺跡の立地する馬毛島は、種子島の西方12kmの洋上にあり、西之表市に所属する周囲10kmほどの三角形をした最高地点71mの低平な小島である。トビウオ漁の基地としてにぎわった時期もあったが、現在は鹿の群棲する無人島である。本遺跡は島の南西の隅、広く海岸を見渡す砂丘上に位置する。

調査の経緯

昭和52年夏、市教育委員会が馬毛島文化財調査を実施した際、たまたま地質調査に訪島していた東京都立大学院生初見祐一から、貝殻や骨片を含む層があることを指摘された。種子島周辺の砂丘でこれまで発見されている弥生時代の埋葬跡ではないかと推定し、昭和53年9月市文化財審議委員と再度調査し、昭和54年西之表市教育委員会が主体となり、発掘調査を実施した。

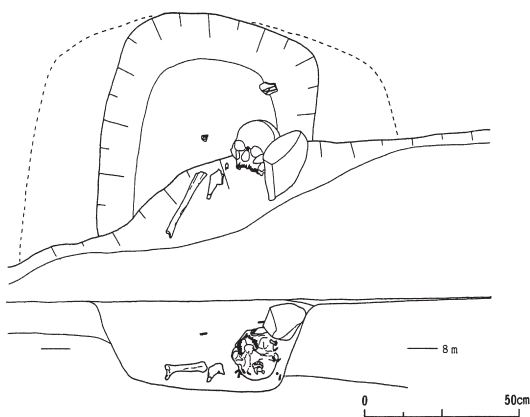
遺構と遺物

埋葬用の土壌の掘り込みが確認され、人の頭骨と右肩胛骨・右上腕骨が発見された。副葬品として、多量の貝製品、水晶1個が出土した。

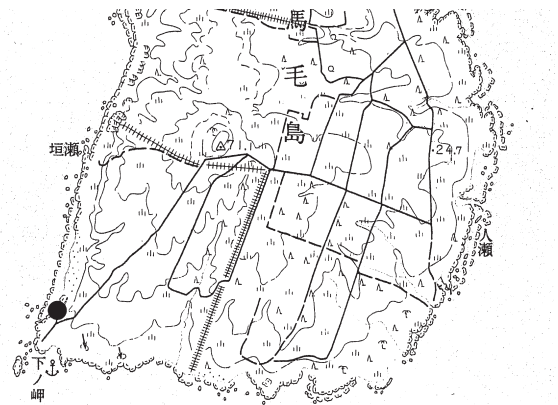
人骨の下半部は採砂作業のために全て失われているが、比較的若い成年男性で、弥生終末期のものと推定される。

人骨に伴う貝製品に、貝小玉とツノガイ製品がある。貝小玉は総計85個、ツノガイ製品は総計268個、そのうち25個が連結したまま出土した。それぞれ首飾り等としてつながっていたと考えられる。

その他、上能野式土器片や磨石が出土している。



第2図 土壌・人骨実測図



第1図 椎ノ木遺跡の位置

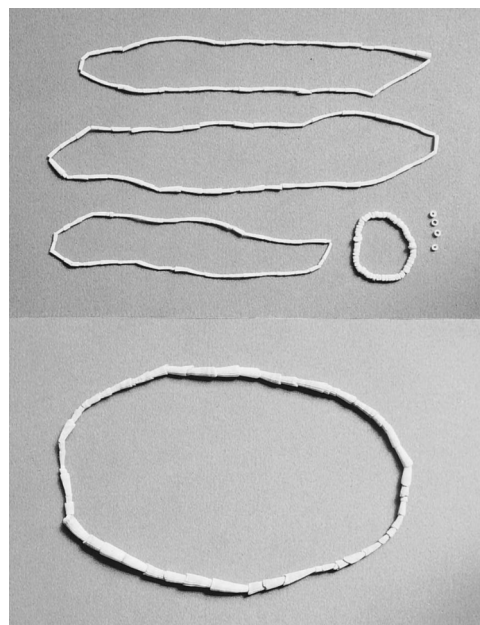


写真1 出土した貝製品

特徴

出土した人骨は抜歯の痕跡があり、また副葬品としてツノガイなどの貝製品が多量に出土していることから、北九州の弥生人骨よりも種子島の広田人骨に類似しており、この時代における同一形質の人の広がりを知る上で貴重なものである。

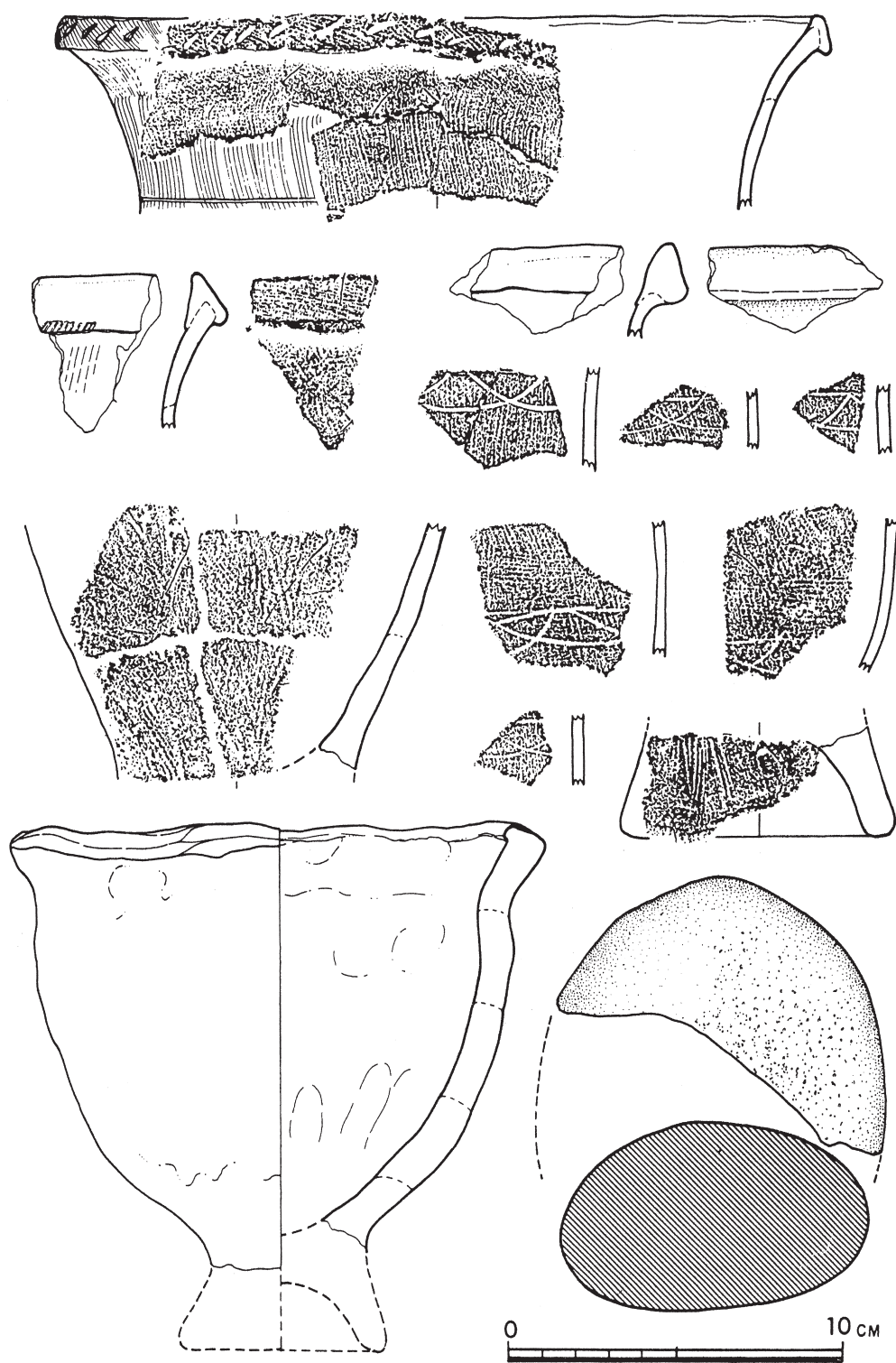
資料の所在

出土遺物は、種子島開発総合センターに保管されている。

参考文献

西之表市教育委員会1980「馬毛島埋葬跡 西之表市椎ノ木遺跡」『西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書』4

(沖田純一郎)



第3図 出土遺物